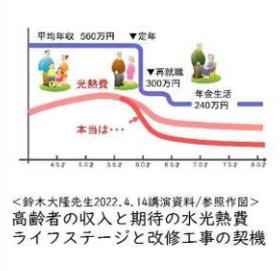


新時代のモノサシ「LCCO2排出量」で進める
改修重視のまちづくり

行政と市民の架け橋となる
CN時代のまちの建築家を目指す

暮らしの提案から地域ネットワーク構築提言まで



運用時CO2排出量への注目だけでなく
建物の生涯CO2排出量 (LCCO2)
評価がまちづくりの視点で重要
この視点は一般建築・住宅共通

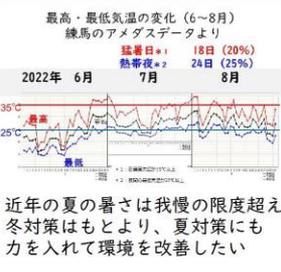
LCCO2は新築と既存改修で互角
まちづくりにLCCO2評価の導入要
公共施設ではLCCO2評価を必須に
新築・既存改修を公平に検討
CNに反する安易な解体をしない

現況建物に何らかの不安、
改善希望がある場合も、
相談先がわからない

気になりつつも何とかなる
ので我慢して暮している

勇気を出して行動し
工事費用をかけたがうまく
行かなかった経験

納得がゆかないままその対応の
相談先がわからない



「住まいから暑さ・寒さを取り除く」
～自宅の断熱改修の経験から～

2022.9.17セミナー (寺尾)
主催：杉並エネルギー会議
(杉並・地域エネルギー協議会／環境自治体会議
環境政策研究所／東京ガス西部支店／東京電力エナ
ジーパートナー／杉並区)

同会議の20年にわたる啓蒙活動

＜現実の姿＞
改修実績事例は極めて少ない
市民への普及を効果的に行う
ために画期的な工夫が必要

＜最も理解されていないこと＞
●改修計画を行う設計者
●工事を行う施工者
大きく2分野あり多くの市民は
・設計者の存在を知らない
・施工者に希望を伝えられない

＜行政への期待＞
・市民の工事への不安を軽減
・公平中立の多数の情報を提供
・未開拓の設計者情報の充実
・改修積極派設計者の一覧化
・積極派設計者の実績情報開示
・設計コンサルへの助成制度
＜改善後の市民の行動＞
・自治体等の上質の情報の活用
・多数の選択肢から自ら選択
・的確な選択をするために学ぶ



＜CN貢献度に自信を持つ＞
LCCO2を評価軸に置くことに
より「新築」か「改修」かの判
断で「改修」の選択に自信が持
てる

「最先端新築」と「省エネ化既
存改修」はLCCO2において互
角。もともとコスト面の魅力が
あり既存住宅の圧倒的な数の多
さから普及が進むと社会貢献度
が高まる

＜まちの建築家の努力＞
◇行政や市民団体と協力して
まちの建築家が改修事例を
披露する機会を設ける
◇まちの建築家同志が情報交
換し技術面のレベルアップを
図る
◇高額な改修工事にチャレンジ
できない市民に向けて生活
改善を含めた幅広いメニュー
を区と協力して作成する

＜改修促進への提言「設計」＞
◇公的機関 (区) の相談窓口
◇「設計」「施工」の役割があ
り知られていない「設計」が最
初に必須であることを周知する
◇相談窓口には設計関係者配置
◇初回相談料は無料 (区がコン
サル費用を負担する制度創設)
◇市民が多くの設計候補者から
選択を検討できるようリスト化
◇市民は自らの責任で選択

＜改修促進への提言「施工」＞
◇ (区は) 工事事業者について
も市民が選択し易いよう、改修
に積極的な事業者を一覧化
◇市民は自らの責任で選択
◇市民は設計コンサルの協力に
より「設計書」「仕様書」など
を作成し工事事業者に見積書作
成を依頼する
◇ (区は) 市民が的確な選択が
できるように学ぶ場も設ける

2050年CN達成に向けた地域ネットワークの構築

まちの建築家は、人口57万、32万戸の住宅を要する杉並区にCN
時代に向け、区有施設・一般建築・住宅を含み、LCCO2排出量を
評価軸に据えてまちづくりを考える自治体となるよう提案する。
具体的には、区を中心とする関係者総力戦として、各種団体
(設計、施工、金融、学術研究、市民活動家等) が協力し市民が自
らの選択で改修工事に踏み出せる「安心環境の構築」を提案する。
さらにその先の理想環境として、サーキュラーエコノミー実践
都市としていち早く研究に着手し、実践することを提案する。
幸福な暮らしを実現する目的で地域が2050CN実現に相互協力する。